



森ボラ 通信

第 39 号 2005 年 9 月 20 日発行
北海道森林ボランティア協会
札幌市中央区南 2 条西 2 丁目金市館ビル 8F

Tel:241-8155 Fax:241-8308

E-mail:h-shinrin-v@indigo.plala.or.jp

URL:<http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

■トピックス

◆天高く——キノコ料理講習会

9 月 16-17 日参加 20 名。上々の秋晴れに恵まれました。まずは湯澤チーム、澄川チーム、森林総研チームに分かれてのキノコ狩りでスタートです。少雨高温で収穫は望み薄と見られていましたが、ラクヨウ(ハナイグチ)は採れなかったもののボリボリ(ナラタケ)、ハタケシメジ、ハナビラタケなど食べられるキノコが種類も量もたっぷり収穫できました。定山溪自然の村に荷物搬入後、高橋さん・佐野さん姉妹のマンションの豪華温泉で貸切の極楽気分を味わい、村に戻って料理開始。ポトフにキノコの炊き込みご飯、ハナビラタケとキュウリの酢のもの、ハタケシメジのキムチ和え…湯澤さんの名人芸の料理が次々並びました。炊き込みご飯は 3 升炊きの釜に薪ストーブで炊き上げたもので、まさにアウトドアの醍醐味でした。会員も即興でキノコ汁やみぞれ和えなど思い思いの料理に挑戦し、前地さん提供のキクラゲとラム肉の炒め物“シルクロード”なる妖しいアイデア料理も登場すると場は否応無しに盛り上がりました。



翌朝は高橋さんのパンづくり講習。2 時間かけて生地を準備しダッチオーブンで焼きました。高橋さんは 30 年程パンやお菓子づくりの指導に携わった名人です。その高橋さんもダッチオーブンで焼くのは初めてとのことでドキドキでしたが、こんがり見事に焼き上がりました。もちもちの幸せな味がしました。数種類のパンにトマトでアレンジした湯澤さんのポトフにコーヒーの素敵な朝食となりました。昼食には定山溪温泉名物のインドカレーをペロりと平らげ、肥ゆる秋の贅沢な旅を締めくくりました。

湯澤・高橋両名人の好意と、家庭菜園から野菜をたくさん提供してくれた会員の好意、予想以上のキノコの収量をあげた参加者の集中力により会費一人 2,000 円の Back、残金 1,249 円は森ボラ会費に入金させていただきました。(柴田記)

◆芸術の森「アート・マーケット」

9 月 11 日(日)アート・マーケットの会場入り口には時間前から出店入場車の列が出来ていました。わがチームもそんな中で 9 時 30 分には集合。場所はメインルートから外れた、探すのに苦労するような美術館前の芝生の上。条件は良いとは言えない所でした。しかし、店番の呼びかけの努力もあって立ち止まる客が目立つ店でした。312 点のうち 133 点が売れました。率にすれば 42%程度でした。金額にして 37920 円。素人が作った物。本当に売れるのかと心配した中でのことなので、嬉しいことでした。補充が利かないことで、時間の経過とともに売り場が劣化してゆきます。4 時を待たずに店じまいをしました。そんな条件下で一応成功したと評価して良いと思ったことでした。年に 2~3 回はこのような催しに参加することで、製作意欲を刺激し、実利を得ることで会の運営に貢献できる目途がついたことは確かです。作業参加申込書裏の別表の販売実績をよくよくご覧ください。貴重な資料です。次回の指針といたしましょう。なお、製品の一部は忘年会のビンゴの景品に化けることになりそうです。(高野豊記)

◆有明第二 2005.9.1

この日の作業について、2 件の投稿がありました。

《有明第二都市環境緑地に想う》

9月1日有明第二、春植え広葉樹の下刈、添え木と新たな地掻き作業後、記念に植えた桜(3m)の横に標識柱「ボランティア記念植樹」(高さ1.8m)を参加者全員で立てた。



想えば平成14年6月10日当協会創立スタート後、協会最初の活動の場として平成14年6月18日に現地下見会が実施され、初めて参加の同志19名が森林内に活動の第一歩を踏み入れた。その時の心境は様々でも大方はこの森林内で力一杯汗を流そうと思っていたに違いない。今日まで調査測量、除間伐、造林、遊歩 —1— 台風被害木調査などの作業を確実に実行してきたが、ネマガ —1— の格闘も含めて最もハードな作業現場であること、参加者の誰もが苦難の体験から記憶に残る現場であろう。しかし、着実に森づくりが進む中残念なことに昨年9月の18号台風により立木500本230㎡(大型トラック15台分の木材)を失った。その中トドマツ140本被害の人工林地の被害木整理伐をした後3年前の枯損木伐採済も含めて明るくなった林床に今見事に木本類が再生してきた。一方無立木のチシマ笹地帯に広葉樹200本を植栽したことも当協会独自の初めての造林事業として大いに誇れるものです。そしてその記録として記念柱を立てたがこれで完了ではない。今後毎年下刈ほか保育作業が続き、又来年動物の食害や雪害など生育状態を見て更なる造林を検討していきたい。(加治)

《森の変遷に立ち会うこと》

もう3年半前になります。ここ有明の森に入ってまず間伐をしました。真っ暗なトドマツの林でした(昭和20年に植栽された森だそうで、あの第二次大戦の最中、植林を続けていた日本はすばらしい国です、国でした)。間伐して明るくなった昨年、台風がやってきてトドマツは半分倒れてしまいました(あの日、私達は中国植林に旅立った日でした)。風倒木整理をしました。"稚樹救出作戦"でした。



アカゲラ用に残した中折れの枯れ木には今虫がわいてきて鳥が突いた穴があります。地面は、草と稚樹の下で見えませんが私たちの切り刻んだ丸太がごろごろして腐れかかっています。ご覧ください。光が入って栗を主体に次の世代が見事に成長してきています(今日は隣の笹地に春に植えた広葉樹の植林地の下刈りに訪れました)。この森の一時期それも厳しい時期に、その変遷に私達は立ち会うことができ栄光でした。この写真は今日活動に参加できなかった人たちへおすそ分けのつもりです。(酒井)

◆製材機&チップーお目見え

8月27日、北海道神宮の活動地で株式会社ニトリより助成の製材キットを当会賛助会員である山本機械(株)に発注、受領しました。出席者20名で納品指導を受け、試験製材及び端材粉碎をし、台風被害木の利用に有効なキットであることを確認しました。



製材機は組み立て式の固定台にチェーンソーと丸太を固定させ、たこ糸を張ったリールを巻くとチェーンソーが台の上を滑りながら移動し製材する誠にシンプルな仕組みです。チェーンソーを使い馴れている当会員は大変飲み込みが早く、たちまちに2本の丸太を狂いなく仕上げました。丸太がみるみる角材や板に変身する様を見て、当面のベンチづくりの課題を飛び越え夢はログハウスへと広がってしまったようです。

また、チップーはコンパクトな体ながら節くれだった枝も次々と飲みこんで、細目中目のチップがみるみる山となりました。植栽木の保護に、堆肥に、燻製に(?)、広い用途に活躍しそうです。

尚、今回の助成は株式会社ニトリが自社の発展の恩返しに北海道を元気にしたいと設立した基金総額1億円の助成先を公募、高野事務局長が提案した倒木木材資源の有効活用のアイデアが採用されたものです。517件の応募総数中43件の採用でした。(酒井記) ※9/30午前10時、(株)ニトリより柿崎氏が視察に来られます。

移動式製材機スチールロゴソール M7 型



- 質量：52 k g ■全長：5.5m ■全幅：1.1m
- 使用チェーンソー：STIHL MS880
- ガイドバー：63 c m

共立ウッドチップパーKCM100 型



- 最大処理可能径：100mm
- 処理能力：1.5m³/h
- エンジン出力：7.4kw (10ps)



この日威力を発揮した機械がもうひとつあります。セブンイレブンの助成により今春購入した林内作業車です。集材や道具の運搬などを行います。上の写真の丸太の山は、この作業車で引っ張り集材しました。

企業の社会貢献の心意気を我々ボランティアが最大限有効な形にする—3 台の機械の稼動に理想的な流れを見る思いがしました。我々の知恵で可能性は限りなく広がりそうです。(柴田追記)

◆スイカ 2 玉——甘い水に誘われて

野幌は 6 月の作業開始以来延べ 10 日程の作業で畝幅 3m の人工植栽列 18 列の地拵えが概ね終了しました。本格的な植林は来春を予定していますが、9 月 20 日に 1 列のみ広葉樹の試験植栽 (112 本) を行い、雪害・ネズミ被害等の状況を観察します。

8 月 25 日の作業日には、酒井さんより自作のデンスケスイカ、島田さんよりご近所のスイカ農家から選りすぐりの大玉スイカの差し入れがありました。不思議なことに、予告したわけでもないのにこの日は 19 名といつもより賑やかな顔ぶれ。会員の鋭い嗅覚には恐れ入りました。この日は誠のスイカ日和。滝のように流れる汗も流れ出た分美味しさ倍増です。お昼ご飯は後回しで、切り終わるのも待ってられずガブリと皮までも平らげる勢いでした。(柴田記)



■今月の幹事会

■10 月の活動

□藻岩国有林／5 回 (間伐) □北海道神宮／4 回 (製材・枯れ枝払い・枝処理・施肥・剪定) □野幌森林公園／1 回 (植林地整備) □会員例会 (10 月 3 日リンケージプラザ) □リンゴ園／台風被害無しに付、袋取り・葉摘み・収穫作業繁忙期に入る。□木工／神宮の椅子制作 □理事会開催 (理事長の日程調整中)

■木工「芸術の森アートマーケット」成功 売上 37,920 円 ※詳細別記事参照

■積丹町との調整：高野他 2～3 名で訪問、作業優先順位と年次計画構想

■北都システム(株)から寄付金 30,000 円

■有償業者からの寄付金：手稲／97,700 円 機械損料および消耗品代／250,000 円
藻岩／100,000～150,000 円 (予想)

■北海道神宮：境内林は一応の整理終了／第二苗圃造成と育苗開始／ニトリ製材機の設置と活用／水槽確保

■その他 □有明作業 9 月初旬に設定 □キノコ料理講習会／9 月 16 日(金)、17 日(土)

(出席幹事：加治、芝、柴田、杉本、高野、西野、棟方)

◆コンニャクづくり講習会

日時：10月24日（月）9：30～
 会場：杉本邸
 ※木工の日ですが、コンニャクづくりも行
 います。講師は勿論湯澤さん。芋も湯澤さ
 んの畑で育てました

◆オイスカ「子供の森」づくり

日時：10月15日（土）午前8：00
 集合場所：北電本社ビル南（大通東1）
 植樹場所：道民の森・当別町青山地区
 参加費：1,000円
 ※昨年同様、当会も後援しています。

<ご報告>

- ◆ (社)北海道森と緑の会より野幌プロジェクトに対して400,000円の助成金が交付されます。
- ◆ 9月15日（木）10時、石狩森林管理署にて酒井代表幹事、高野事務局長が出席。藻岩国有林における森林整備活動に関する協定書の交付を受けました。

■活動履歴

《活動日》	《活動場所》	《参加人数》	《活動内容》
9/16,17	定山溪自然の村	20	キノコ料理講習会
9/13	西野第二	7	ニセアカシヤ萌芽刈
9/11	芸術の森	6	アート・マーケット
9/10	杉本邸	7	アート・マーケット準備
9/9	杉本邸	10	アート・マーケット準備
9/10	北海道神宮	9	苗圃メンテ、製材
9/5	杉本邸	13	木工
9/1	有明第二	18	草刈、植苗手入れ
8/31	野幌森林公園	11	地拵え、植苗準備
8/29	杉本邸	19	木工
8/27	北海道神宮	20	製材機試運転、斜面倒木整理
8/25	野幌森林公園	19	地拵え
8/23	北海道神宮	16	第二苗圃整備
8/20	野幌森林公園	7	地拵え

■コラム

■九州大学演習林見聞録

足寄に九州大学の演習林があるのをご存知でしょうか。たまたま広告を目にし、9月3日に開催された見学会に出掛けてみました。主催は森林体験学習はじめ様々な環境保全活動を展開している帯広のNPO「トカプチの森」です。

九州大学演習林は終戦による海外4演習林の廃止に伴い1949年（S24）に大蔵省からの移管を受け設置されたもので、面積は3,713ha、3分の2が落葉広葉樹の天然生林、他はカラマツを主とする人工林です。中には300年を越す古い天然林（約300ha）もあるようですが、今回は比較的新しい林が見学対象でした。もともと陸軍の軍馬補充部のあった場所で、二次林はほとんどが放牧草地からの遷移ですが、札幌では見られない絶滅危惧種のヤエガワカンバ（八重皮樺）の一斉林や、林ひとつが1固体のクローンの可能性があるエゾヤマナラシの根萌芽林など、珍しい遷移例が見られました。

また、人工林の中でも特異な試みとして、良質なナラ材を持続的に生産する実験林を見せていただきました。200ha程の林を150に区画割し、毎年1区画ずつ種まきからの育林を行うもので、150年に達した区から伐採し2巡目の更新に入ります。研究開始は1972年ですから2121年が最初の伐採です。改めて林業のスパンの長さを感じ、その頃の世代はどんな森林観を持っているのかと思いを馳せました。8mまでの枝打ちで高品質材生産を研究するカラマツ人工林も、林齢50年を越す林はどっしりと見応えがありました。

今回は演習林長と助手の2名体制の案内で、生物学的なお話から施業技術のお話まで演習林見学ならではの面白味をたっぷり味わうことができ、わざわざ遠征した甲斐がありました。北大苫小牧、東大富良野に続く演習林ツアー第3弾を、来年6月頃企画したいと考えています。ご期待ください。（柴田記）

